

皆様方には、平素より私ども八幡信用金庫をご利用、お引き立ていただきまして、誠に有り難く厚くお礼申し上げます。当金庫をより一層ご理解いただくため平成21年度の決算内容等を取りまとめたディスクロージャー誌2010「はちしんナウ」を発刊いたしました。



## 平成21年度実績について

平成21年度のが国経済は、世界同時不況により大手製造業を中心に生産が大きく落ち込みましたが、その後、中国・インドを中心とするアジア向け輸出の下支え、政府の財政出動や金融円滑化法の施行等の対策が打ち出され持ち直す動きとなりました。一方、当地域については、製造業では自動車関連等での生産縮小、建設業においては公共工事の減少、観光面でも不況やインフルエンザの流行等のあおりを受け、観光客数は2年ぶりに減少に転ずるなど極めて厳しい経済情勢が続きました。

このような状況下、当金庫の業績につきましては、預積金残高は952億円と前期比12億51百万円(1.33%)の増加、貸出金残高は地域経済の低迷が続くなか、「全国緊急保証」等への対応により345億円と前期比8億59百万円(2.42%)の減少に留まりました。収益面におきましては、金融緩和策をうけた低金利が続いたことにより預金利息は減少したものの、資金需要が盛り上がり欠けたこともあり貸出金利息は伸び悩み、厳しい環境が続きましたが、適正なリスクコントロールのもと効率的な資金運用を図ったこと等から当期純利益は3億15百万円を計上することができました。

## 今後の事業展望について

当地域の今後の経済環境につきましては、雇用の回復の遅れと消費不振が続き、少子高齢化、人口減少等の構造的問題も抱えていることから、引き続き厳しい状況が続くものと予想しております。

こうした状況下、当金庫は2010年度経営計画における基本方針を「基本理念に根ざした新たな八幡信用金庫のスタート」とし、「金融サービスの提供」「当金庫経営基盤強化への取組み」「地域経済活性化に対する取組み」の三つの視点から重点方針を定め、地域金融機関としての恒久的使命でもある「リレーションシップバンキングの機能強化」に積極的に取組むことにより、地域経済の活性化を支えていきたいと考えております。これからも全役職員が力を結集し地域の持続的発展に貢献できるよう努力する所存でございますので、どうか今後ともよろしくご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成22年7月  
理事長

野田 紘一